

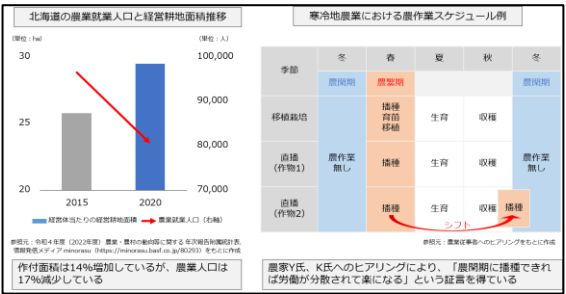
# GerminaX

## 特殊ポリマコーティングによる発芽時期管理ソリューション

指定したタイミングで剥離するポリマーを種子にコーティング  
発芽人手不足解消・発芽率・歩留まり率向上を同時に実現する

### ■ ポリマコート種子技術開発の背景

- 食糧安全保障の観点から、持続的な国内食糧生産が重要視されている。一方、高齢化による農家減少で一農家当たりの作付面積が増加し、農家の労働負担の増大が問題化しています。
- 寒冷地農業では、農繁期の労働が過酷なため、農閑期への労働分散の声が上がっている。
- 種子の表面にポリマーコーティングを施し、発芽タイミングをコントロールできる仕組みを開発しました。



### ■ ポリマコート種子の基本的な仕組み・適用シーン

- 内側（1層目）：冬越し後も残る春用のコーティング  
春の気温上昇により剥離 外側（2層目）：秋～冬の間、水分吸収を完全にブロックする層  
冬の間に剥離 この2層構造により、「秋にまいても発芽しない」・「栽培サイクルを最適化」といった機能の実現を目指しております。
- 類似技術と比較して、コーティング材料、層構造が異なり、温度による正確な発芽制御が可能であり革新性、優位性を有しております。
- 現時点では、北海道内の作物を対象とした利用を想定しているが、コーティングの乖離温度は調整可能なため、全世界の省力化が必要な農業現場・土木現場への適用をめざしていきます。  
(3.1兆円にも及ぶ種子市場への進出が可能となると試算。)

